

# 平成25年大分県観光統計調査(1月～12月・確報)の概要

平成27年6月10日

大分県企画振興部 観光・地域局 観光・地域振興課

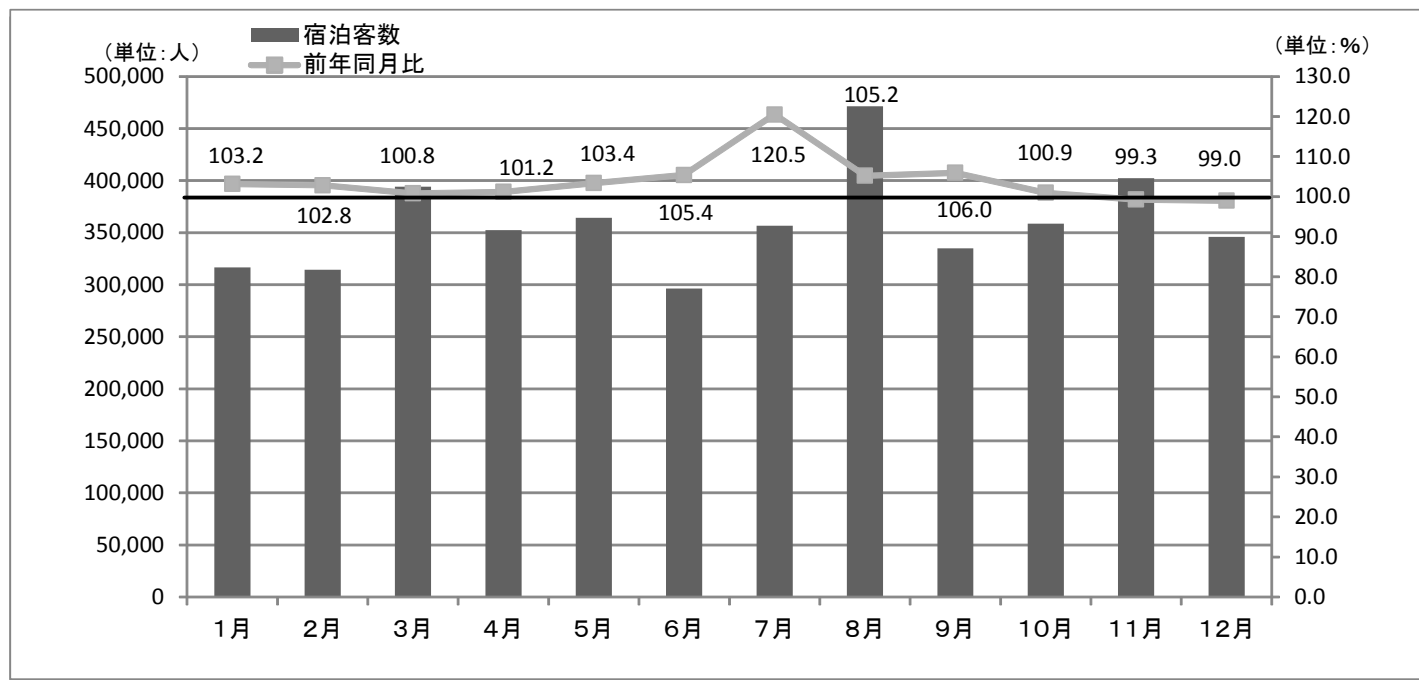
- ・平成25年の宿泊客数は431万人で、前年比+3.7%(平成24年+4.7%)であった。
- ・宿泊客のうち、国内宿泊客数は398万人で、前年比+2.8%(平成24年+3.5%)であった。居住地別では、福岡県からの宿泊客が最も多く、次いで大分県内、関東からの宿泊客の順であった。
- ・外国人宿泊客数は32万人で、対前年比+15.5%(平成24年+24.2%)であった。国・地域別では、韓国からの宿泊客が最も多く、次いで台湾、香港の順であった。

## 1 平成25年の県内宿泊客の動向

平成25年の宿泊客数は430万人で、平成24年と比べ3.7%増加した。

増加の要因としては、九州北部総体が開催され7月下旬から8月上旬に遠方からの宿泊客が大幅に増加したこと、おんせん県おおいたのPRが浸透し、関東からの宿泊客が増加したこと、訪日観光の人気に伴い外国人宿泊客が増加したことなどが考えられる。

### 平成25年月別県内宿泊客数(確報)



## 2 国内宿泊客の動向

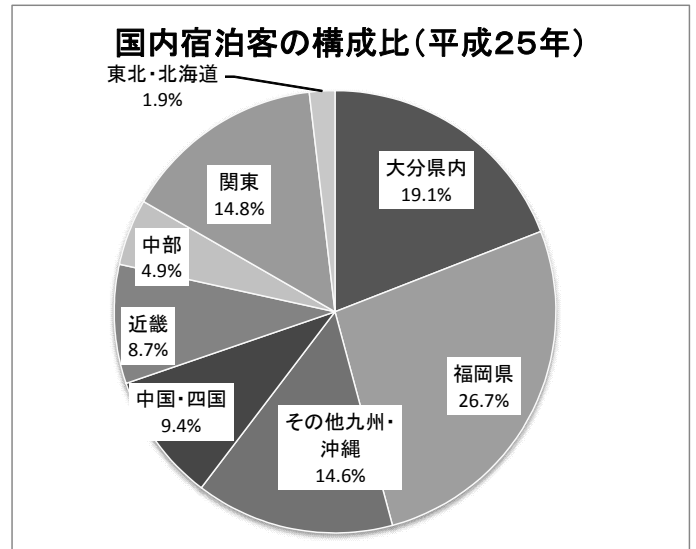
平成25年の国内宿泊客数は398万人で、平成24年と比べ2.8%増加した。

発地別の宿泊客の構成比では、福岡県からの宿泊客数は106万人で最も多く26.7%を占め、次いで大分県内が19.1%、関東が14.8%の順であった。

北九州総体の影響もあり平成24年と比較すると、中部、関東、東北・北海道からの宿泊客が大きく増加した。

表1 国内発地別宿泊客数

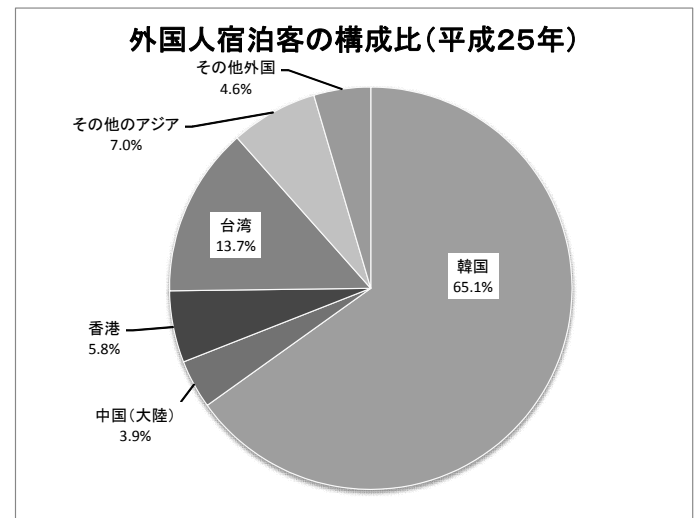
	宿泊客数 (人)	前年比 (%)
大分県内	760,321	- 2.8
福岡県	1,064,802	+ 2.2
その他九州・沖縄	579,850	- 0.5
中国・四国	374,317	+ 4.5
近畿	346,532	+ 1.7
中部	193,349	+15.3
関東	590,640	+ 7.8
東北・北海道	74,434	+37.9
国内宿泊客計	3,984,245	+ 2.8



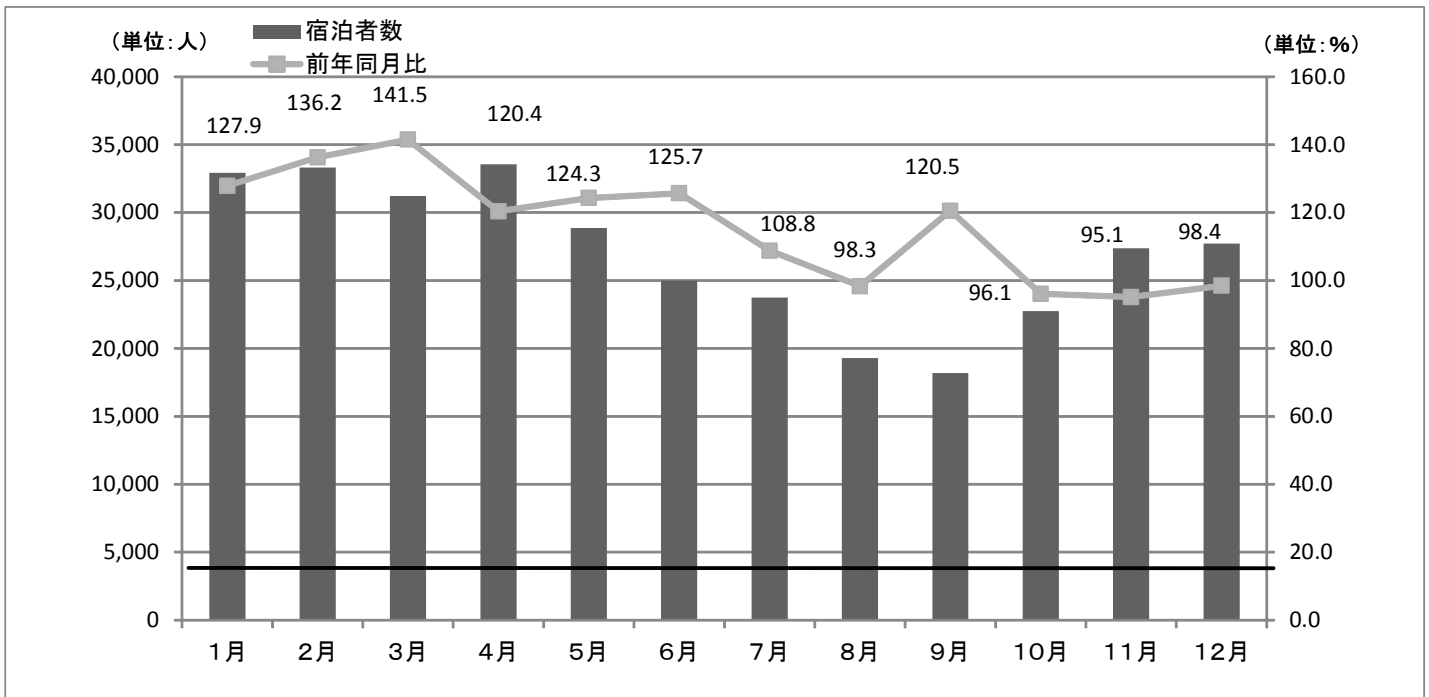
### 3 外国人宿泊客の動向

平成25年の外国人宿泊客数は32万人で、24年と比べて15.5%増加した。

外国人宿泊客の国籍別構成比をみると、韓国からの宿泊客が21万人で最も多く、外国人宿泊客全体の65.1%を占める。次いで台湾、香港の順であった。平成24年の構成比と比較すると、韓国は4.1ポイント減少した。



平成25年月別県内外国人宿泊客数



#### 4 市町村別宿泊客

平成25年の市町村別宿泊客数で最も多いのは別府市で209万人、全体の48.4%を占める。前年比では全ての市町村で増加している。

表2 市町村別宿泊客数

	宿泊客数(人)	構成比(%)	前年比(%)
大分市	770,966	17.9	+ 5.2
別府市	2,087,229	48.4	+ 3.4
日田市	260,042	6.0	+ 2.9
竹田市	128,059	3.0	+ 7.0
由布市	284,113	6.6	+ 1.3
九重町	143,650	3.3	+ 7.9
その他の市町村	634,390	14.7	+ 2.6
県計	4,308,182		+ 3.7

※端数処理のため、合計が100%とはならない

#### 5 県内交流客数

・有料観光施設(入場者数)	5,485,317人	(対前年比 + 6.4%)
・道の駅 (レジ打ち数)	3,872,408回	(同 +14.5%)
・大分空港 (乗降客数)	1,646,383人	(同 +12.9%)
・県内港湾乗降客数	1,749,369人	(同 + 4.8%)
・高速道路 (1日の出入通過台数)	107,802台	(同 + 3.9%)

#### ※有料観光施設は以下の28施設の入場者の合計

1 大分マリンパレス水族館「うみたまご」、2 高崎山自然動物園、3 スギノイパレス、4 アクアビート、5 城島高原パーク、6 別府ラクテンチ、7 別府ロープウェイ、8 別府地獄組合、9 ハーモニーランド、10 大分県マリンカルチャーセンター、11 臼杵石仏、12 風連鍾乳洞、13 岡城趾、14 滝廉太郎記念館、15 稲積水中鍾乳洞、16 朝倉文夫記念館、17 くじゅう花公園、18 九州湯布院民芸村、19 福澤旧居・資料館、20 サッポロビール九州日田工場、21 地底博物館鯛生金山、22 昭和の町、23 富貴寺、24 真木大堂、25 熊野磨崖仏、26 九州自然博物公園アフリカンサファリ、27 安心院葡萄酒工房、28 国東市歴史体験学習館「弥生のムラ」